

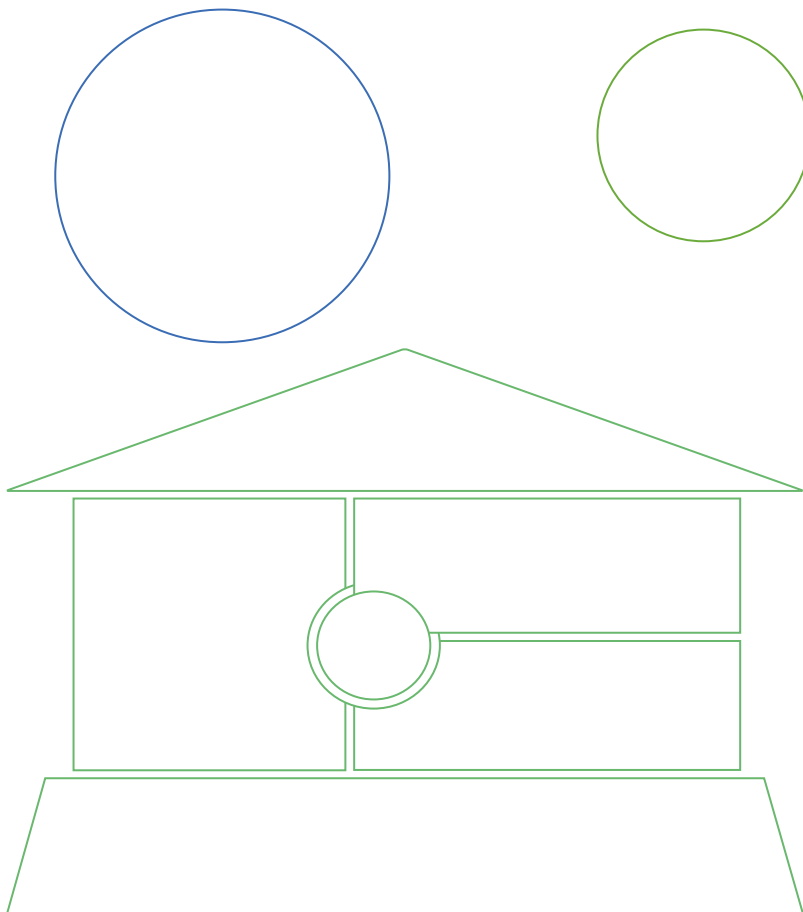
あたたかなつながりを実感できる、みんなが主役のまちづくり

第三次住民福祉活動計画（マキノ・今津・朽木・安曇川・高島・新旭）

2020-2024

第三次高島市地域福祉推進計画

2021-2025



さあ、みんなで参加しよう！



あたたかなつながりを実感できる、
みんなが主役のまちづくり



写真提供：公益社団法人びわ湖高島観光協会

ごあいさつ



「あらゆる主体の参加と協働による、ふくしのまちづくりを目指して」

2015年に策定した第二次地域福祉推進計画では「次の10年を見据えた計画づくり-NEXT10」を標榜し、10年後の高島市を考え、福祉のまちづくりを民間の側からどのように進めていくのかを明らかにしました。

この間、地域では見守りネットワーク活動をはじめ、6中学校圏域の住民福祉協議会による地区ボランティアセンターの取り組み等が推進され、子ども食堂など新たな地域福祉活動も生まれました。また、市との共同事務局体制の下に設置した生活困窮者自立支援機関「つながり応援センターよろず」では、制度の狭間の問題や社会的孤立の問題に対応する総合相談支援体制の構築に向けて官民の関係機関と協働して地域づくりを進めて参りました。

一方、社会状況や高島市を取り巻く状況は大きく変化し、人口減少や少子高齢化は予測を上回るスピードで進行しています。そして、貧困や格差、孤立の問題を背景に、80-50問題やヤングケアラーの問題などの複合多問題が社会問題となり、深刻な福祉課題として顕在化しはじめています。

また、令和2年3月に発生した新型コロナウイルス感染症の影響により、社会・経済活動が打撃を受け生活困窮の問題がさらに広がりを見せただけでなく、人と人とが距離を取らざるを得ない状況のなか、これまで地域で培われてきたつながりや支えあいの活動が分断されるなど地域社会にも深刻な影響が生じました。

しかし、このような困難な状況下においても、地域では見守り活動や子育て世帯への支援の取り組みなど、それぞれが感染対策を講じながら互いを思いやり、互いに助け合う姿が見られ、改めて、人と人とがつながり支えあう地域社会のあり方や地域福祉の本質的な価値について考えさせられました。

一昨年9月に計画策定に向けてスタートを切った第三次地域福祉推進計画は、途中新型コロナウイルス感染症の影響から策定委員会の開催が中断され、完成が予定より1年遅れとなるなど困難な状況におかれましたが、5回の策定委員会と計8回の小委員会を開催し、活発な議論や協議を重ねていただき、今日の高島市の現状と課題に即した第三次計画を策定することができました。

第三次計画では、地域住民と関係機関や専門職が連携・協働をしながら、つながり支えあう地域を目指して「ふくしのまちづくり」を進めていきます。

今後、本計画と6中学校圏域の住民福祉協議会の皆様が中心となって策定された「第三次住民福祉活動計画」、および行政の「地域福祉計画」が互いに補完し合い、協力しながら取り組みを進めていくことで住民主体のふくしのまちづくりが結実していくものと考えます。

結びになりましたが、本計画の策定に積極的に参画し、協議をいただきました委員の皆さまに紙面を借りて、改めてお礼を申し上げます。また、第一次ならびに第二次地域福祉推進計画に引き続き、本計画の策定委員長をお引き受けいただきました関西学院大学教授の藤井博志先生には、長期にわたり高島市の地域福祉の推進に寄り添っていただきながら、丁寧なご助言、ご指導をいただきましたことに心から感謝申し上げます。

令和3年3月

社会福祉法人 高島市社会福祉協議会
会 長 古 川 進

計画の取りまとめにあたって

高島市福祉のまちづくり推進委員会 委員長

第三次高島市地域福祉推進計画 策定委員会 委員長

関西学院大学 人間福祉学部 社会福祉学科 教授 藤井 博志

「希望のある地域づくりをめざして」

第一期の地域福祉推進計画策定委員長の就任時に、この計画は3期続けることが大切であると挨拶させていただきました。それほどに地域福祉や地域づくりは時間と継続性が求められる取り組みです。なぜなら、地域福祉は福祉の制度運用よりも、制度では対応できない課題や目標に対して住民や民間事業者の自発性と行政の内発性による協働で進める開発的・実験的な福祉の取り組みであるからです。

このような積極性が求められる社会福祉の取り組みに対して、本計画策定とそれまでの実践に携わられてこられた関係者の皆さまに、あらためて敬意を表したいと思います。

さて、いよいよ第二期までの準備期間を終え、第三期の本計画で高島市の地域福祉推進の真価が問われることになります。この第三期の問題意識は全国的にも課題となっているように、少子高齢・人口減少・単身社会化と貧困格差という地域社会構造変化のなかでの福祉的な住民自治の地域づくりを進めることにあります。しかし、その厳しい課題認識を持ちつつも、これまでに高島市の住民、専門職・事業者、行政が蓄積してきた「福祉力」を再評価し、その力を結集して希望のある高島市での地域・暮らしをつくることにあります。

この機に本計画の性格を確認しておきたいと思います。本計画は高島市社会福祉協議会（以下、社協）の計画です。しかし、社協自体が住民をはじめとした関係者による社会福祉の「協議・協働のテーブル」であるという組織の使命と性格をもっています。したがって、本計画は3つの参加の総合力で地域福祉を進める計画です。それは「地域住民・関係者参加」「社協役員参加」「社協職員参加」です。とくに地域住民・関係者の方々が本計画の課題とビジョンを共有していただき、社協役員とともに進めることを重視しています。

また、行政の地域福祉の施策体系である地域福祉計画の関係は、そこに地域住民・関係者の民意を提言するとともに、行政と協働して地域福祉の新たな活動、事業を開発する計画です。とくに、高島市行政におかれては積極的な「地域福祉施策」と「地域自治協議会による住民自治施策」が進められようとしています。本計画はこの二つの促進を意識して、より住民・民間側の自由で活発な活動・事業をめざす計画でもあります。

そのため、本計画では住民福祉協議会の計画を基盤とした地域福祉の計画として、3つの推進目標、9つの活動項目を設定しています。ご覧いただき、参加してみようと思われる項目を見つけていただければ幸いです。

関係者同士が支え合い協力し合えるための対話がいつでもできるという安心感のなかで本計画を共に進め、希望が持てる地域をつくっていきましょう。これからが本番です。



もくじ

ごあいさつ 高島市社会福祉協議会 会長 古川 進

計画のとりまとめにあたって

高島市福祉のまちづくり推進委員会 委員長 藤井 博志（関西学院大学教授）

contents			
第 1 章	計画の策定にあたって	1 計画策定の背景	2p
		2 計画の目的	7p
		3 計画の位置づけ・期間	8p
		4 計画の進行管理	10p
		5 計画策定の体制	11p
第 2 章	第三次住民福祉活動計画	1 住民福祉活動計画の策定について	17p
		2 マキノ住民福祉活動計画	18p
		3 今津住民福祉活動計画	22p
		4 朽木住民福祉活動計画	26p
		5 安曇川住民福祉活動計画	30p
		6 高島住民福祉活動計画	34p
		7 新旭住民福祉活動計画	38p
第 3 章	第三次地域福祉推進計画	1 地域福祉目標（地域福祉のビジョン）	44p
		2 地域福祉推進計画を推進する 3 つの視点	44p
		3 計画の全体像	46p
		・推進目標と計画の全体イメージ図	47p
		・圏域ごとのネットワーク関係図	48p
		4 地域福祉推進計画総合体系図	50p
	推進目標 1 ……………	区・自治会における見守りネットワークを通した福祉のまちづくり	53p
	推進目標 2 ……………	日常生活圏域における暮らしの場からの多様な地域拠点づくり	62p
	推進目標 3 ……………	地域の多様な住民主体の福祉のまちづくりと住民の参加の促進	68p
	推進目標 4 ……………	総合相談・権利擁護支援の推進	81p
	推進目標 5 ……………	住民ニーズに寄り添ったケア・サービスの充実	87p
	推進目標 6 ……………	計画の推進とネットワークの強化	89p
資料		策定の経過	97p
		地域福祉推進計画策定委員会設置要綱	98p
		策定委員会委員名簿	99p